

2017年(平成29年)5月25日(木)

毎 日 新 聞

富山平見道と海岸風景 (串本町田子)



海岸線が美しい参詣道大辺路

絵と文・熱田親憲 題字・熱田泰華

熊野古道

みづらき

55

昨年10月、串本町の「新田平見道」「富山平見道」「飛渡谷道」にある熊野参詣道大辺路

「清水峠」が世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録された。今回は本州最南端の串本駅からすさみ町に近い和深駅周辺までの3か所を訪ねることにした。

一般的に大辺路とは、関鶏神社(田辺市)から浜の宮王子(那智勝浦町)までの約90キロを指す。「平見道」という見慣れない言葉が気になり、まず、和深駅手前の新田平見道へ。海岸に面した段丘の平坦地を平見と言ひ、これに通じる生活道を平見道という。これが参詣者たちの通ってきた

緑が可能になった記念すべき道なのだ。田子駅に近い赤瀬平に見立つと、潮岬と双島を望む見事な眺望が開けた。さらに小高い場所には田子旗山があり、江戸時代、黒船の来襲を知らせる狼煙場があった。また、和歌山に緊急の助けを求め、3本の狼煙を上げる狼煙台もあ

れた石によって、雨水による土砂の流出や雑草の繁茂が防止され、コケむした石畳が古道をがっちり形成していた。石段は約50段あり、中ほどに石サンゴの一種のキクメイシが組み込まれていた。この地の海岸はサンゴの名産地であることがうかがえた。サンゴを焼いてしっくいを製造する

たそうだ。本州最南端にある黒潮海運の要所らしい装置である。さらに国道42号沿いを東へ進むと、田子地区の坂本造船所の裏に着く。そばにある合川の隙道を潜ると敷き詰めた石畳の階段が平見へと続いている。この石段は串本古座高の生徒らの修復作業時に、埋もれていたのが発見された富山平見道だ。きっちり固められた

れた石によって、雨水による土砂の流出や雑草の繁茂が防止され、コケむした石畳が古道をがっちり形成していた。石段は約50段あり、中ほどに石サンゴの一種のキクメイシが組み込まれていた。この地の海岸はサンゴの名産地であることがうかがえた。サンゴを焼いてしっくいを製造する

る地場産業も栄えていたという。最後に田並地区から有田地区の旧国道沿いの飛渡谷を通る387の追加登録区間を歩いた後、念仏島の送り青竹にわらじと笠とツト(おにぎり)をくくりに、岩の裂け目に差し込んで、死者を海の彼岸の浄土に旅立たせる祈りである。浜辺が木の芽山古道支える

開放感と安らぎを感じる

道で、すさみ町から那智勝浦町にかけての参詣道は海岸沿いと平見との坂を登ったり下ったりして続いている。新田平見から左立谷に降りて旧景道に出るまでの道は、上野一夫さんリーダーとする「大辺路刈り開き隊」が2004年からルート探査、埋もれた石畳道の整備、不法投棄されたゴミ処理などを続け、227キロの追加登

らぎコース」として大辺路をもっと活用すればと、参詣者にアドバイスしたい気持ちに駆られた。

帰路、串本駅近くの「松すし」に立ち寄りおいしいマグロを食した。「自然に近い、身の締まった養殖ものか欲しいですね」という店主の言葉が印象的だった。

木の芽山古道支える石たのみ 泰華